地域シリーズ　：　嵐山から『桂川上流』を行く

小倉山の亀山公園展望台から見る桂川は、山を切り裂くように流れる保津峡の景色ですが、ここからは嵐山中腹の千光寺もよく見えます。その下には川沿いに某ホテルが建ち、渡月橋近くからそこへ船で向かうなど、保津峡の風情を満喫しているように思えます。嵐山から桂川を上がっていくと保津峡の先は亀岡盆地ですが、更にその先は北に上がるのでしょうか、それとも東に行くのでしょうか。それでは、渡月橋から桂川の上流をじっくり巡ってみましょう。

《ご紹介》

嵐山・渡月橋から西を見る桂川は、左に嵐山、正面に烏ヶ岳が迫り、右手には小高い小倉山が椀を伏せたように据わっている。山にはアカマツやヤマザクラ、イロハモミジ、ケヤキなど様々な樹木が育ち、四季折々に美しい景観を織りなしている。川の中ほどには帯状の白波が立ち、その向こうは川面が静かだ。保津峡を勢いよく下ってきた水が一ノ井堰で堰き止められ、平らな水面を保っている。ここでは保津川下り船や千光寺に向かう船、観光船などが行き交い、川中から嵐山を楽しむことができる。この井堰は灌漑用施設として、古くは5世紀末に設けられたといわれており、嵐山の水辺風景をつくる礎ともなっている。

桂川は古くから丹波と京都を結ぶ輸送路として重要な役割を果たしてきた。長岡京や平安京の造営時には丹波の良質な木材が筏を組んで運ばれたといい、13世紀に筏流しを専門とする筏師が現れ、室町時代末期には豊臣秀吉が筏師を保護して発展した。江戸時代になると1606(慶長11)年に角倉了以が私財を投じて保津川を開削し、木材のほか農作物などの物資が舟運で大量に運ばれるようになった。しかし舟運は、1899(明治32)年の京都鉄道(現JR山陰本線)開通やトラック輸送の出現により徐々に衰退し、現在は「保津川下り」として京都の貴重な観光資源となっている。

嵐山の中腹には、角倉了以が開削工事に関係した人々の菩提を弔うため造ったといわれる大悲閣（千光寺）が建っている。室内には木造の了以像が安置されており、観音堂からは保津峡を見下ろすことができる。

➢　嵐山・渡月橋から西を見る

保津川の　舞台つくるや　堰の白波

➢　保津峡と大悲閣（千光寺）

谷の淵　祈りの松明　流れ星

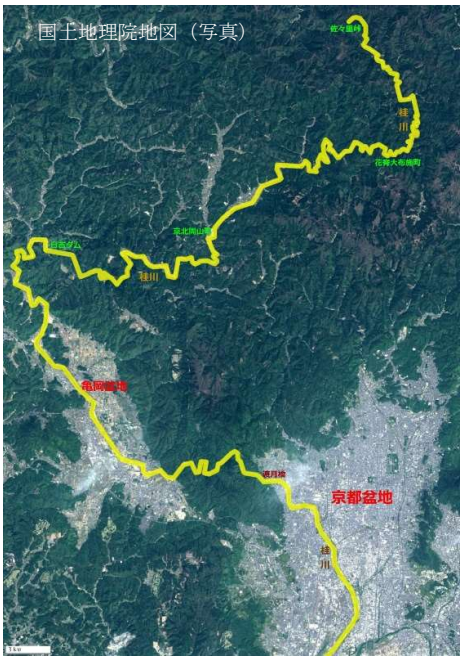
ところで、京都にとって欠かすことのできない桂川は、いったいどこから流れてくるのだろう。桂川は丹波高地の佐々里峠を源とし、左京区広河原から鞍馬街道沿いを南東に流れる。京都市と美山町との境にある佐々里峠には立派な石室があり、峠にたどり着いた旅人の疲れを癒してくれる。

つづら折りの峠道を京都方面に下っていくと、右手にスキー場が見えてくる。京都市内で唯一残る広河原スキー場だ。かつては大勢のスキー客で賑わったが、近年は雪不足で不定期開催となっている。このあたりで桂川は鞍馬街道と交わり、広河原から花脊へと流れていく。スキー場から約 2 キロ先の早稲谷川（わさだにがわ）との合流点は広河原の松上げ場となっていて、集落の祭りの場として整えられている。さらに京都方面に約 6 キロ行くと、山村都市交流の森近くの河川敷に花脊の松上げ場がある。谷あいを曲がりくねって流れる桂川の広い河原を利用し、周辺の道路や橋、田畑からよく見える場所に祭り場が設えられている。桂川上流では、川が集落の祈りの場所としても活用されているわけだ。

桂川は花脊大布施町で西に向きを変え、京北地域の集落をグルグル回って周山町に至る。そこで周山街道沿いを流れる弓削川と合流して宇津峡に入り、日吉ダムによってできた天若湖（あまわかこ）となる。日吉ダムは、洪水調節と利水等を目的に 1998（平成 10）年から運用開始された総貯水容量 6,600 万立方メートルのダム。これは天ヶ瀬ダムの 2.5 倍の貯水量に相当する。湖の名称は、水没した 201 世帯の地区名を採って「天若湖」と名付けられた。

日吉ダムを流下した桂川は、南に向きを変え亀岡盆地へ入っていく。この盆地はかつて大きな湖だったといわれており、川によって運ばれた上流の土砂がここに堆積し、まとまった盆地を形成した。

➢　桂川の流路



・佐々里峠石室

・広河原スキー場

・広河原松上げ場

・花脊松上げ場

➢　日吉ダム

・天若湖

亀岡盆地は、最下流の保津峡部分が狭窄部を形成しているため、これまで幾度となく氾濫をくり返してきた。特に 60（昭和 35）年の台風 16 号では戦後最大の出水を記録し、JR 亀岡駅周辺まで浸水するなど多くの被害をもたらした。このため 71（同 46）年の「淀川水系工事実施基本計画」改訂で、桂川の治水対策は日吉ダムによる洪水調節と、保津峡開削を含む河道改修によることとされた。治水対策の大きな柱である日吉ダムは、基本計画（改訂）から 27 年後の 98（平成 10）年に完成し、治水安全度は飛躍的に向上したのである。

桂川は亀岡盆地を縦断し、南部の馬堀駅あたりで東に向きを変え、保津峡を流れて谷口部の嵐山・渡月橋に向かう。途中、落合橋で清滝川と合流し、勢いを増して保津峡を流れ落ち、嵐山に流れ着く。　（続く）